

【八月の言葉（平成三十年）】

死ぬということですべてが終わると

思うから

いま生きていることに執着する

死ぬことですべてが終わるだとなると、当然いま生きていることだけに価値を求め、そのことに執着してしまいます。しかし、そうではない世界、死を受け容れていく世界があるとなれば、死は終わりではなくなるし、今を生きていくということへの見方が変わります。

生きているうちがすべて、生きているこの世界のことだけがすべてだという自分自身の思いにとらわれず、すでに亡くなった方を偲び、そのご恩を思い出してみることです。そうすると、さまざまな悲しみや苦しみ、死に対するマイナスの感情と、少しは距離を置くことができるのではないでしょうか。

親鸞聖人は、死の苦しみの中でも、あるがままの私がそのまま救われていく世界があるとおっしゃっています。